

申 考 動



◇本年度の全国学力・学習状況調査の結果と本校の学ぶ力向上策について◇

年度当初に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果および成果と課題について、次のようにまとめました。「家庭学習のしおり」とともに今後の学習に活用してください。

○結果の分析

- ・国語A（知識）の正答率は全県比同値、全国比 1.1 ポイント下回る。
- ・国語B（活用）の正答率は全県比 2 ポイント上回り、全国比 1.2 ポイント下回る。
- ・数学A（知識）の正答率は全県比 1 ポイント上回り、全国比 0.1 ポイント下回る。
- ・数学B（活用）の正答率は全県比同値、全国比 1.9 ポイント下回る。
- ・理科の正答率は、全県比 2 ポイント上回り、全国比 0.1 ポイント下回る。
- ・学習状況では、「家庭で予習、復習をする」、「学校の授業時間以外に 1 日 2 時間以上勉強をする」、「家人と学校での出来事について話をする」が、全国平均を上回っている。逆に、「家庭での自学自習に教科書を使う」、「地域行事・ボランティア活動への参加」が、全国平均を下回っている。



○成果と課題

- ・**国語**：定期的な漢字テストや小テスト等の帯活動としての取組が、漢字を正しく読み書きする力や語句の理解につながっている。また、抜き出し問題に高い正答率が見られるのは、読書活動やNIEの取組がいかされていると考えられる。文章を読み込み、話の展開や目的に応じて書くことに苦手意識がある。また、語句の使い方や活用の仕方が不十分で、語彙力不足が課題としてあげられる。
- ・**数学**：既習事項の定着が見られる。特に基礎知識を問う内容に関する正答率が高い。授業時間内に実施している帯活動としての小テスト等が記憶の維持に効果的であったと考えられる。正答率の低い内容については、文章を式で表現する力や関係を読み取る力が不足していることから、多くの情報や条件の中から必要なものを選び、それを活用する力を高めることが課題としてあげられる。
- ・**理科**：毎時、レポート作成を実施してきたことで、基礎知識を問う内容の正答率が高くなっていると考えられる。積極性や自信をもたせるための話し合い活動を取り入れたことで、選択式の内容では、消極的な無回答が0パーセントであった。知識を活用して深く考えたり、説明したりすることに苦手意識があり、記述式解答の正答率は高くない。また、自然事象への関心・意欲・態度や地学的領域に関する内容の正答率も低く、大局的なものの見方が十分でないことが課題としてあげられる。
- ・**学習状況**：毎日の「考動タイム」の実施により、学校での学習内容や学習課題を家庭での学習につなげることがスムーズになってきたと考えられる。また、教科での帯学習の導入による学習内容等の反復学習が、基礎・基本の定着につながっている。ほぼ全体の生徒に「学びたい・わかりたい」という教科学習への関心・意欲・態度や、規範意識は少なからず醸成されているので、自尊感情の高揚を図ることを大切にしながら、個々への丁寧な指導を心がける必要がある。

○学ぶ力向上策（我が校の学力向上プラン：学校ホームページに掲載）

- ・毎授業の「めあて、流れ、ふりかえり」の明示と帯活動の徹底。
- ・自主学習ノートを活用した予習、復習を含む家庭学習への接続。
- ・本校チャレンジプランに基づく深い学びを生み出す取組の推進。
- ・次年度から実施される「特別の教科 道徳」に向けての道徳教育の抜本的改善・充実による授業改善。

